

福祉支援機器共同開発 プロジェクト

～札幌リハビリテーション専門学校の学生とともに～

一年次のまとめ

- 自分自身の支援機器を作るには、作れる人に自分ができること、できないことをしっかり伝えて協力してもらうことが必要だと考えました。

二年次の取り組み

- 一年次に取り組んだデータを札幌リハビリテーションに郵送して、「協力してほしい」とお願いしました。



専門学校
の原田さんと鶴巻さんに承諾を得ました。(^ _ ^) /



- 自分自身困っている事とさらに、自分でできること・できないことをまとめ、送りました。

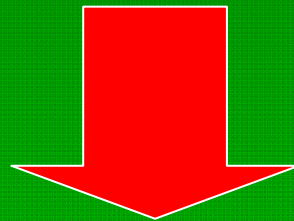


送ったものに対して、質問、疑問などをメールで返答しました。



原田さんたちは、

「高いところに物をあげること」について着目し、
支援機器のアイデアを募りました。



その結果、52人の学生から回
答がきました！！

多くのアイデアを分類した結果、

「棚の改良」

「リーチャー」

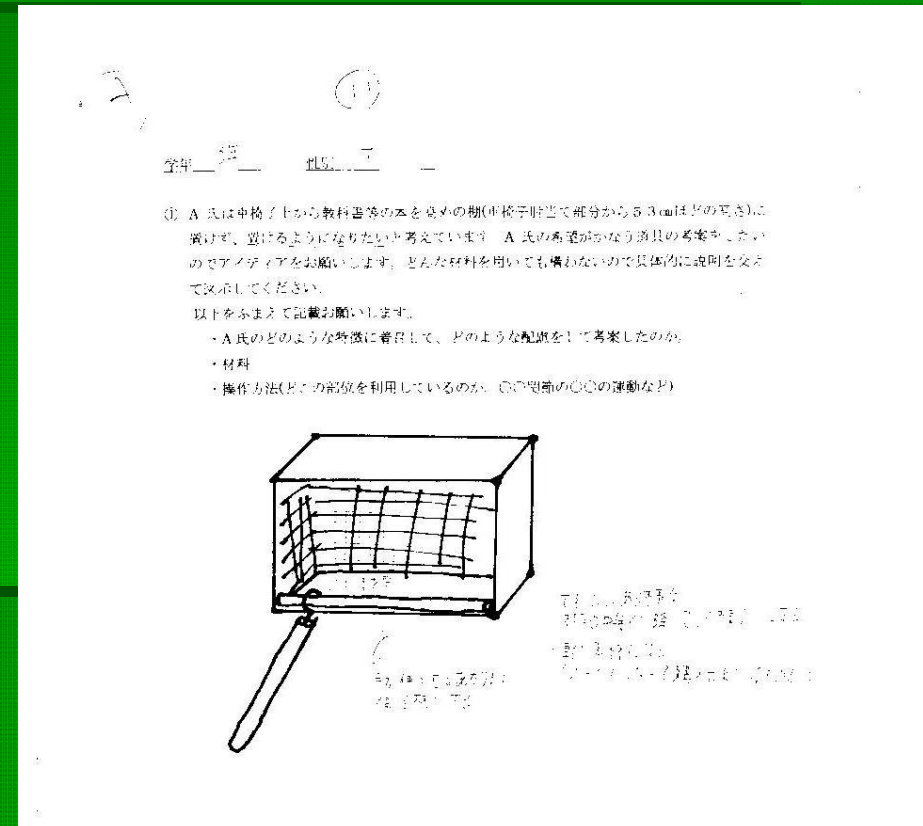
「滑車」

の3つにまとめることができました。

棚の改良について

良いところ

- ・棒で引っ張れば取れる。
- ・教科書が入った棚を手前に持っていける所。



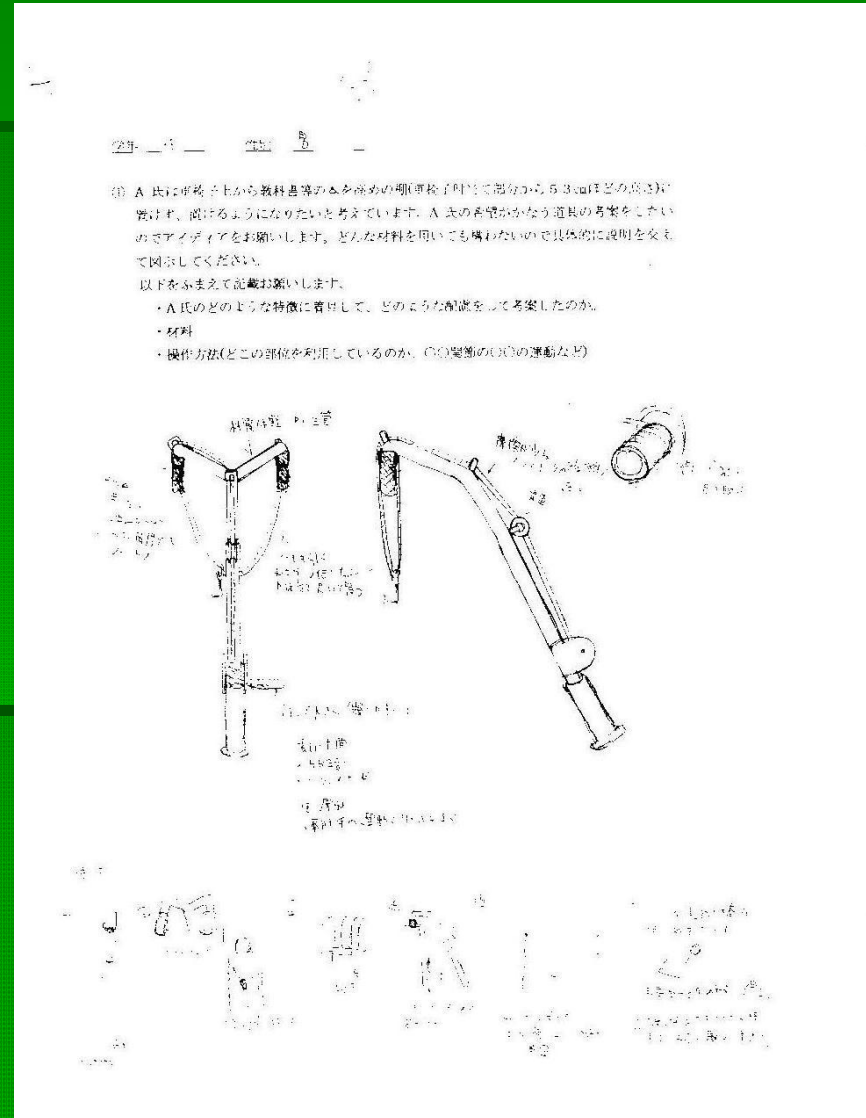
課題

- 本を取るのに時間が掛かる。
- 両手で棒を引っ張るのは体力的に無理である。
- 棚にベニヤ板をつけるのはいいのだが、横の支えが無いと手を上に上げられない。

リーチャーについて

良いところ

- 二倍も重い物を持つことができる。
- 棒の長さが上下調整できる。
- 棒を指の操作で、取れやすくしている。
- 病院生活には役立つ。
- 手をアームレストに装着して、取れるようになっている。
- 釣竿型のリーチャーは、デザインがよい。



課題

- フックで引っ掛けて取るのは時間が掛かる。手のバランスが取りづらい。
- どんな向きでも自由に動かせるようになっていない。

滑車について

良いところ

- ・ひもを引っ張ることができるので、自分の力でできる。

①

学年 4 性別 ♀

① A氏は平椅子から教科書等の本を高い棚(平椅子肘当て部分から53cmほどの高さ)に置けず、置けるようになりたいと考えています。A氏の希望がかなう道具の考案をしたいのでアイデアをお願いします。どんな材料を用いても構わないので具体的に説明を交えて図示してください。

以下をふまえて記載をお願いします。

- ・A氏のどのような特徴に着目して、どのような配慮をして考案したのか。
- ・材料
- ・操作方法(どの部位を利用しているのか、〇〇関節の〇〇の運動など)

案①

案②

棚で昇降式にある
ひもでFABRを吊るす
まぐさ時は150cmのFABRに
① ひもをひく
② 本をのせる
③ 棚を元の位置へ

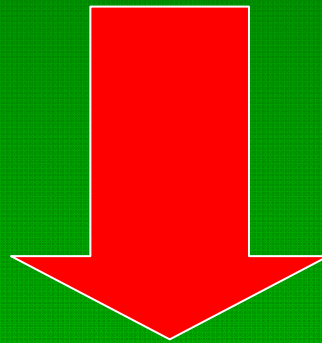
課題

- ・滑車を取り付けることが難しいこと。
- ・どの生活場面でも滑車を使えるわけではない。

自分の課題

学生からのアンケートの集約した結果

- ・情報が足りない。(棚の状態、私の生活環境など)



自分の身の回りの環境について振り返りました。

学校生活

○学校の棚



- ・普段、ファイルを取る時は手を肩に置いて頭に乘せて棚に手を入れる。
- ・また、先生にとってもらっている。しかし、自分で取りたいというニーズがある。

実家の生活

家のテレビ



- ・テレビの上にあるビデオデッキにビデオを入れられない。
- ・祖母にリモコンを取ってもらっている。
- ・リモコンをすぐ取ることができない。支えがないと取りづらい。
- ・しかし、一人でみたいビデオもある。

病棟生活

○病棟の棚



物を取っている様子

- ・ふだんは、一人でものを取っている。**徐々に取りづらくなっている。**
- ・普段、ものを取る時は肘を浮かせたまま手を引き出しにかけている。
- ・引き出しから出した物をバランスを取りながら下ろすことが難しい。

身体の動き

○指先、腕の動き

- すばやく握ることはできるが、何回か動かすと力が入らなくなる。
- 物を握ることはできるが、カバンや物をあげる時に手に力が入りにくい。
- 服を脱いだり、着たりする時に腕を遠心力で上げないとできない。

その他(アンケートから)

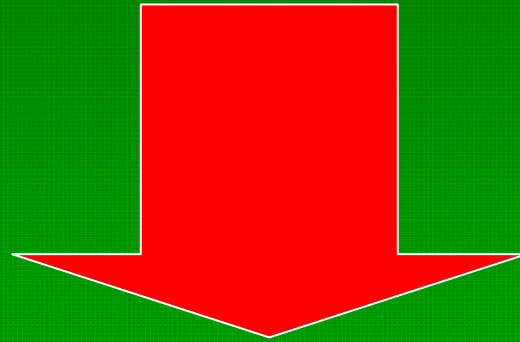
- ADL(日常生活動作)一人の人間が独立して生活するために行う基本的で、かつ各人が共通に毎日繰り返す一連の身体動のこと
(食事、車椅子の操作などの身体運動、精神活動)
- ・ STEF(簡易上肢機能検査)とは、指先、腕の動き主に速さを中心として検査します。
- ・ ROM (骨・関節の障害程度を評価すること。)

詳しくはOTの田中先生に聞きたいと思います…。

考察の結果

私の生活環境を考えた場合、理想となる福祉支援機器は、リーチャーのようなものと肘を支える台のようなものです。

自分の足りなかった情報をまとめ、アイデア
に対するコメントと福祉機器の提案を原田さ
ん、鶴巻さんに送ります。



まだ、福祉機器の開発に至っていない状態です。

次年度には、福祉支援機器ができる予定です。

まとめ

福祉支援機器を考えるときに大切なことは**生活環境、身体の動き**を具体的にし、何に困っているかニーズを整理して明確に伝えることです。

そして、当事者と支援者が**情報交換**をすることでより良い福祉支援機器ができると思います。

おわりに・・・

次年度は福祉支援機器を開発するだけではなく、札幌リハビリテーション専門学校に行って、**講演**を行う予定です。詳しい内容は未定ですが、自分の生活の様子を話したいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。(^ _ ^) /